

国土交通省政策会議分科会（第16回）議事要旨

- 1 日 時：平成22年5月18日（火） 8:00～8:55
- 2 会 場：衆議院第二議員会館 第3会議室
- 3 国交省出席者：藤本祐司大臣政務官、中島国土計画局長ほか
- 4 議 題：平成21年度首都圏整備に関する年次報告（案）について
- 5 議事要旨
 - （1）藤本大臣政務官挨拶
 - （2）配布資料に沿って説明
 - （3）出席議員からの主な意見
 - ・ 首都圏といってもその範囲は広く、東京圏以外の地域にも着目する必要があるのではないか。また、首都圏とそれ以外の地域のバランスも重要ではないか。
 - ・ 首都圏整備法は古い法律であり、国の関与の必要性も当初とは大きく変わってきているのではないか。大都市圏に対する国の関与の必要性の基本的な考え方が重要である。
 - ・ グレーター・ワシントンを経済的な国際競争力という視点でメガリージョンの例に含めているのはなぜか。
 - ・ 羽田空港の24時間国際拠点空港化についての記載があるが、成田空港も含めた圏域整備の考え方をお聞きしたい。
 - ・ 世界都市東京の課題として、国際空港等の使用料の高さなどがあり、そのような観点からも海外から人、モノなどを呼び込む体制の整備が重要である。
また、東京の発展と地方の発展の関係についてはどのように考えているか。東京の発展が地方の発展にもつながることが重要である。
 - ・ 「ビジネス・エコシティ」とあるが、どういうものを目指しているのか。目標とする事例があれば教えてほしい。
 - ・ 成長戦略として投資を都市に行うとしているが、現政権の言う「コンクリートから人へ」と、首都圏に投資を呼び込むという考え方の関係をどのように考えているのか。厳しい財政状況の下、どのようにインフラ整備を進めるのか。
また、電力や水資源の供給という点で、東京を支えているのは地方である。水の重要性に対する国民の認識が低いと感じており、より快適な生活や地域の発展には水が重要である。
 - ・ 昨年度実施したことについて報告するという白書の重要性を再認識してもらいたい。
 - ・ 要旨において、「ニュータウンの高齢化」についての記載があるが、このよ

うな首都圏が抱えている問題についても、その重要性を認識する必要があるのではないか。

- ・ 環境は重要な問題であり、生物多様性に関して、緑地の保全・再生の重要性といった視点で説明しているが、実現可能性の視点が重要である。

(4) 出席議員からの発言を受けての国土交通省の回答

- ・ 大都市圏においては、昭和 30 年から 40 年代に、首都圏、近畿圏、中部圏の三圏について法律が制定され、法律に基づく計画をそれぞれ策定してきたところである。また、圏域も広く、中部圏については北陸の一部も含めた広い範囲となっている。

一方、総合的な計画としては、首都圏等においても、既に広域地方計画を策定しており、現在の三圏計画については、見直さざるを得ないと考えている。

また、大都市圏における国家戦略的な視点からの取組の必要性については、国土交通省成長戦略会議においてもご議論いただいております。昨日、報告書が取りまとめられたところである。今後、地域主権の考え方を踏まえつつ、色々なご意見を伺いながら大都市圏戦略の策定を進めてまいりたい。

- ・ 首都圏以外の地域においては、名古屋市を中心に、海外から投資等呼び込むため、地方公共団体や産業界、大学、研究機関等が一体となり、国際的産業交流を促進するグレーター・ナゴヤ・イニシアティブという活動が行われており、シンク&ドウタンクとして内発的な地域戦略づくりに取り組んでいるところである。
- ・ グレーター・ワシントンは、ワシントンDCというよりも、周辺のメリーランドやバージニアへの産業誘致等について、地元自治体や経済界の共通認識の下、官民連携で取り組んでいるという視点で取り上げている。
- ・ 成田、羽田両空港の関係については、要旨において記載しているところである。なお、首都圏白書は首都圏整備計画に関する年次報告であるが、現行の首都圏整備計画は、平成 11 年策定（18 年一部改正）と古く、大都市圏戦略の策定を進める中で、このような計画も見直すことになるので、ご指摘の圏域整備のビジョンを明確にしていきたいと思います。
- ・ 首都圏のインフラについては高い評価を得ている一方で、その活用面での非効率性が指摘されていることから、重要な課題として検討する必要があると考えている。
- ・ 東京と地方の関係については、地方が疲弊することは日本全体の活力低下に繋がると考えている。東京対地方といった対立軸ではなく、それぞれがそのポテンシャルを活かしつつ、連携と役割分担により発展していくことが必

要と考えている。

- ・ 「ビジネス・エコシティ」については、世界の大都市において取り組むべき課題であると認識している。
- ・ 水供給に関しては、第2章において記載することとしている。
また、第1章を中心に説明させていただいたが、昨年度における取組等を記載する第2章が白書の中心であることは言うまでもない。
- ・ 郊外における都市の縮退に関しては、大都市圏戦略策定に向けた検討の中で、重要な課題として取り上げてまいりたい。
- ・ 緑地の保全については、地元住民の方々との調整等、難しい側面があるが、近郊緑地保全制度等により、大都市圏の緑地保全には一定の効果があったものと認識している。環境が重要という認識はっており、その点で今回の白書にも取り上げている。

～以上～